

第 1 回 大石田・横山地区かわまちづくり協議会 第1回議事録

日 時： 令和 7 年1月 27 日(月) 18:00～19:35

場 所： 大石田町役場3階 大会議室

出席委員： 加藤委員、小内委員、佐藤(美)委員、佐藤(里)委員、高橋委員、芳賀委員
柏倉委員、阿部委員

欠席委員： 鮎川委員

アドバイザー： 国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所 工務第一課長
山形県村山総合支庁(北村山地域振興局)建設部 北村山道路計画課長
山形県村山総合支庁建設部 北村山河川砂防課長

事務局： 国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所 工務第一課、大石田出張所
山形県村山総合支庁(北村山地域振興局)建設部 北村山道路計画課
大石田町 建設課

司 会： 事務局(大石田町 大沼建設課長)

1. 開会	司会より開会あいさつ
	・ これまでの”かわまちづくり事業”の取組みを紹介したのち、本協議会への協力を依頼し、開会宣言。
2. 委嘱状交付	町長から委嘱状を手交により交付
3. 町長あいさつ	庄司町長よりあいさつ
庄司町長	・ かわまちづくりが目指すべきことは、最上川と共生し、地域の魅力を高め、住みやすいまち、観光に訪れたいまちを作り上げることである。 ・ 持続可能なまちづくりの一環として、皆様からのご意見を頂きながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
アドバイザー 事務局員紹介	出席のアドバイザー・事務局員の紹介
4. 協議会の 設置について	資料1「大石田・横山地区かわまちづくり協議会の設置について」 事務局(大石田町 建設課 寺寄主事)より説明
	・ 資料1及びスクリーンにより、説明。
5. 講話	「大石田・横山地区かわまちづくり計画の策定に向けて」 東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科 加藤講師
(講師の略歴紹介)	・ 司会より、加藤講師の略歴を紹介したのち、加藤講師より講話。
(講話)	・ まちづくりのポイント ⇒共通するのは”プロセスを育んでいくこと”が重要であるということ。

	・ 事例を通じたまちづくりの3つのポイント ① 目的を明確にする（事例：公園の整備） ② 実現に向けた体制を作る（事例：公共施設の再生） ③ プレイヤーを計画段階から巻き込む（事例：空き家の再生） ① 目的を明確にする（事例：公園の整備） ・ ”誰が何をできる場所にするか”を明確にして、”出てきたアイデアを実現するためにはどうしたら良いか”を仕組みとしてインストールした。 >できる人のターゲット(子育て世代・民間事業者など)を明確にして、具体的に何ができるかを聞きながらワークショップを開催 >これにより、できる組織を事前に作り上げることができた。 >設計者(整備)と指定管理事業者(運営)を同時に選定することにより、運営を見据えた設計を可能とした。 ② 実現に向けた体制を作る（事例：公共施設の再生） ・ 大石田・横山地区では”河川・堤防・まちをどのようにつなぐか”が重要になってくる。 ・ 図書館と広場をつないだ事例であるが、空間をつなぐだけではなく、組織の壁をなくした。 >計画段階から部署横断の会議体を作り、さらに、民間事業のまとめ役としてのトータルコーディネーターを担うことにより、密な連携が可能となり、整備・運営の両面から使える場所となった。 ③ プレイヤーを計画段階から巻き込む（事例：空き家の再生） ・ 勉強会を開催し、まちづくりに興味がある仲間集めから始めた。 ・ 勉強会への数多くの参加者により、空き家を使ってほしい人、空き家を使いたい人のマッチングが生まれた。 >多くの人が計画や空き家の整備段階から運営に関わることにより、住民主体でイベントが開催されるなど、空き家再生単体からエリア全体へネットワークが広がり、魅力的なまちに変わりつつある。 - その他：周辺施設と連携して魅力を高める（事例：高円寺駅周辺） ・ 銭湯の隣にある施設を”銭湯付きアパート”、公園の前にある施設を”公園付きシェアハウス”と呼び、集客を図った。
--	---

	>単体だと魅力が足りない施設でも周辺施設と連携することで魅力が高まった。 ・ 大石田・横山地区でも”河川付き広場””河川付き拠点”ができてくと思うので、周辺環境と連携していくことが重要である。川や橋に加えて、残地で生まれる広場や周辺店舗などの地域資源を組み込みながら、魅力的な場所を作っていくことが求められると思っている。 その他：最上川景観の再発見 ・ ここへの道中、あらためて、最上川の景観が素晴らしいと感じた。 ・ この景観を住民の皆様には誇りに思ってもらいたい。その誇りが外の人にも広がっていくことが好ましい。 ・ この環境と向き合いながら、豊かな暮らしを作っていくという視点でこの協議会が進められたら良いと思っている。
6. 協議	
①会長及び 会長代理の選出	
	・ 会長への立候補者がなく、事務局より加藤委員を推薦 →出席委員の賛成により、加藤委員を会長に選出 ・ 加藤会長より佐藤(里)委員を会長代理に指名 →設置要綱により、佐藤(里)委員を会長代理に選出
②町民意見 について	資料2「第2回ワークショップの結果を踏まえた施策の方向性の整理」 事務局(大石田町 建設課 寺寄主事)より説明
③今後の 進め方について	資料3「今後の進め方について」 事務局(大石田町 建設課 寺寄主事)より説明
④その他	質疑応答
加藤会長	・ 全体を通して、ご意見、ご質問があれば、挙手のうえ発言をお願いします。
佐藤(里)委員 ※文化財保護審議会	・ 文化財保護審議会の立場から、また、個人的な立場から述べさせていただきます。 ・ 元禄 2 年に芭蕉が大石田町を訪れ、元禄 10 年頃には大石田の船が 292 艘あった。1792 年には幕府直轄の舟役所が設置された。特殊堤防の壁画にはその様子が描かれている。 ・ ぜひ、資料2の A ゾーンに示されている”舟役所跡の周辺整備”を進めてもらいたい。

	・ 当時の建設省が作成したパンフレット「よみがえった大石田の河岸」もぜひ読んでもらいたい。ここには、「皆さんが最上川と親しめるように、散策路やベンチを整備し、皆さんの憩いの場所や観光スポットとしてまちづくりの支援になればと思っています」と記されています。 ・ 現状では人が訪れていないため、いくつか提案させていただきます。 ①仮称「川の駅」→複合的な商業施設の整備 > 舟役所跡の近くに高台があり、そこからの眺めが素晴らしい。 > 撤去される橋の手前の空地も利用できそう。 ②歴史文化散策コース→佐藤家(佐藤(里)委員の所有)の活用 > 舟役所大門の裏手に立地している。 > 最上川とまちを結ぶ拠点として適している。 ③河岸散策コース→船着場から新しい橋までの散策路の整備 > 釣り人なども集まり、健康志向にも配慮できる。 ④広域的な観光ルート→大石田駅から最上川を結ぶ散策路の整備 > 利用者が多い銀山温泉バスの乗降客を呼び込む。 ・ ②で提案した佐藤家を紹介します。 > 明治 39～43 年に建てられた蔵座敷 > 杉ではなく、ケヤキ支えられている建造物 > 18 畳の部屋の1畳分の天井は屋久杉が使われている > 池の石は阿波青石が使われている > 書院造の座敷から池を見ながら飲むお酒は最高 ・ 候補地として選定する前に、ぜひ見学に来てください。
事務局	・ 佐藤家の活用をご本人から提案頂いたことは、とても心強い。ぜひ、次回の協議会の前にでも、委員の皆様と見学させて頂きたい。
加藤会長	・ 皆様とまち歩きをする機会があってもいいですね。 ・ やはり周辺エリアとの連携は重要であり、そのための目的づくりはたくさんあったほうが良いと思う。
柏倉委員 ※PTA 連合会	・ ワークショップで出された素晴らしいアイディアは全てできるものなのか教えて頂きたい。
事務局	・ あくまで参加して頂いた皆様からの要望であり、物理的に実現できないものも含まれている。この協議会の中で、実現できるもの、実現できないものを議論していきたい。
加藤会長	・ これらの多様な案がまとまって出てくるのはいつのタイミングになりますか。

事務局	・ 令和 7 年 7 月に開催予定の「第 2 回かわまち協議会」には、皆様にご提示したいと思っています。(資料3_P19:スケジュール参照)
芳賀委員 ※観光協会	・ 協議会当日ではなく、事前に資料を確認できるよう配慮して頂きたい。
事務局	・ そのように配慮します。
加藤会長	・ スケジュールは、期間が長く設定されているため、皆様がいつまでに何をすべきかイメージできたほうが進めやすいと思う。準備、ハード整備、ソフト整備など、それぞれの期間が分かるガントチャートのようなものを準備して頂きたい。
事務局	・ これも次回の協議会にはご提示します。
小内委員 ※区長会連絡協議会	・ この事業が完成するのは 10 年後くらいか。その頃には、高齢者ばかりになっている。そのようなことも考えて事業を進める必要がある。
事務局	・ 事業のスケジュールは定められたものであり、短縮できるものではないということが現状です。 ・ 人口減少、高齢化は全国的に課題となっており、大石田町においてもそれを軽減するための取組みを進めています。このかわまちづくりの事業がその一助になるように皆様と進めていきたいので、お力添えください。
加藤会長	・ 令和 7 年 7 月に提示される計画(素案)では、全体ビジョンのようなものがまとまる。そのビジョンを踏まえて、どう取舍選択していくかという議論になっていくと思われる。次回までにはご指摘の件がクリアになっていくと思います。
芳賀委員 ※観光協会	・ 大石田町には、特殊提の壁画など、舟運文化を目にできる場所が多くある。一方、銀山温泉が人気で新幹線が到着する毎に 200 名くらいの観光客が降りてくる。乗船寺や千本だんごまでは行くが、最上川までは来てもらえていない。佐藤家が公開されて、観光客が周遊するようになれば、観光客を案内しますよ。 ・ 最上川の財産として、世界3大舟歌のひとつである”最上川舟歌”がある。この活用をかわまちづくりのメニューにも加えて頂きたい。
加藤会長	・ 舟歌まで体験できるということですね。銀山温泉への観光客の数%でも最上川に呼び込むことができれば、大きな経済効果になります。そのためには、”景観”体験”回遊”をセットで提案していきたい。
事務局	・ 点と点を結んで線にする、さらに面していくという大事な取組みだと思われます。ぜひ参考にさせていただきます。

事務局	・ 佐藤家の活用に関連しますが、建設課の有志で盛岡市にある古いお屋敷を再整備した文化財的な建造物である”南昌荘”を見学してきました。大石田町でもそのような取組みができたらと思っています。
阿部委員 ※地域おこし協力隊	・ 第 2 回ワークショップに参加したが、町民の皆様は、大石田町が有している文化、食を外の人に知ってもらいたいというと感じました。 ・ 現在、町民や観光客が訪れる KOE no KURA(こえのくら)で働いています。「お団子屋さんを教えてください」という問いに対して、場所を教えることに加えて「ぜひ最上川も見てきてください」と加えるようにしている。観光客は近くに最上川があることを知らないでお団子屋に向かったが、お団子を買って、堤防上で食べたとのこと。「とても良かった」という言葉を頂きました。大石田をもっと知りたいという人とのつなぎ役を担っていると感じました。 ・ 全てのアイディアを盛り込むことは難しいと思うが、目的、ターゲットを明確にして、優先順位をつけながら取組んでいけたらいいと思います。
加藤会長	・ お団子は店内だけではなく、外で景色を眺めながら食べるのもいいですね。そこにベンチだけでもあれば利用イメージが広がっていくので、検討頂きたいと思います。
事務局	・ ベンチの設置は、比較的対応しやすい取組みなので、事業の開始を待たずに可能な限り進めていきたいと思っています。
高橋委員 ※そば街道振興会	・ 村山市富並出身で 20 年ほど前に大石田町に来て蕎麦屋を営んでいます。 ・ 大石田町に来て思ったのは、”観光資源があるのにどのように見て回れば良いか分からない”ということでした。観光客に対して”見られるカタチ”を整備してもらえると、お客さんの滞留も増えるのかなと思います。
加藤会長	・ おっしゃるとおりですね。マップ作りなど、魅力的なコンテンツをどう可視化していくか検討して頂きたい。 ・ また、阿部委員のお話にもありましたが、”案内する人”も大事であり、誰がどのように案内するかという担い手づくりについてもあわせて検討して頂きたい。
事務局	・ これまで庁内でも部署毎に様々な取組みを進めてきたが、それぞれの取組みであることが浸透しない要因であると感じています。町全体のグラウンドデザイン的なものがあればいいのではないかと。

	・ この協議会をきっかけにそのようなものができれば良いと思っています。
加藤会長	・ ひとつの事業を通して、様々な部局が連携するということは良い姿だと思いますので、そういった体制作りも進めて頂ければと思います。
佐藤(美)委員 ※社会福祉協議会	・ 特殊提の壁画近くの川沿いの家にお嫁に来ました。阿部委員も近くに来てくれましたが、“大石田町に来て良かった”と思ってもらいたい。 ・ パンフレット「よみがえった大石田の河岸」の写真を見て、以前はきれいな景観だったことに驚きました。現在は、壁画はきれいに残っていますが、散策するコースには草が生えたりしていて、歩きづらい状況になっています。 ・ 整備によって、きれいな景観になっていくといいなと感じました。
加藤会長	・ 確かに地域の方に魅力を感じてもらえるような整備が必要ですね。 ・ ターゲットを明確にするという話もありましたが、まずは地域住民、その先に観光客だと思います。日頃の散歩コースというのは重要だと思いますので、ぜひ検討ください。
事務局	・ この散歩コースは、国土交通省さんから大石田町に管理が移管されています。なかなか手が回らないというのが実情であり、心苦しく思っていますが、町だけで管理していくのも不可能なところもあります。 ・ そういった点からも、プレイヤーの設定が重要であると実感しています。どのように管理していくかも含めて、この協議会でその方法も探ることができればと思っています。
加藤会長	・ 環境整備についても町だけでは限界がある。散歩イベントのようなものもやってくださる方がいると、“ここを歩くと気持ちがいいんだ”といった新たな気づきにもなるし、高齢者が一歩外に出るというきっかけにもなると思います。
難波アドバイザー ※国土交通省	・ 成功している現場は、車の駐車場がしっかり整備されている、駐車場から複合施設やロケーションの良い場所までの動線が確保されている、徒歩で楽しめる散策路が整備されている、さらには、船がある。 >石巻市(旧北上川かわまちづくり)には、離島への船の発着場があり、猫島に足を運んで、写真を撮影してくる人も多い。 >名取市(閑上地区かわまちづくり)では、観光施設を巡る小型の周遊船を運航させている。また、イベント時には、駐車場と展望天端を結ぶ足として「トゥクトゥク」を運行させている。

	・ 国の事業では、駐車場の整備や、追加施設を整備・管理するといったメニューはないため、まずは、橋を架け替えて、堤防を整備するという事業に取組み、その中で地域活性化に貢献できればと思っています。 ・ 今後は、治水対策ではできないような事業についても、皆様に策定するかわまちづくり計画を参考にしながら、地域に賑わいを作っていくような事業などの予算要求をしていくことで、協力させていただきます。それにより、散策路に草が生えないような舗装をかけるといった取組みもできるようになりますので、よろしくお願いします。
佐藤(正)アドバイザー ※山形県	・ 銀山温泉の観光客は 30 万人と言われていますが、日帰り客を含めると 120 万人を超えており、混雑を避けるためにマイカー規制を実施しているような状況です。 ・ これまでのお話しにあったとおり、これらの観光客が、かわまちづくりの周遊ルートに来て頂ければ活性化につながっていると思っています。
佐藤(晋)アドバイザー ※山形県	・ 平成 30 年に最上総合支庁でのかわまちづくり計画の申請に携わり、その後、整備に関わってきました。さきほどの話にもあったとおり、計画から整備まで時間がかかるため、計画でイメージしたものが出来上がるように進めて頂きたいと思います。 ・ 最上総合支庁では最上小国川の整備を申請しました。鮎釣りをターゲットに進めましたが、大石田・横山地区では様々なカードがありそうなので、皆様の意見を聞きながら進めて頂きたいと思います。
加藤会長	・ アドバイザーの皆様は様々な経験をお持ちだと思いますので、技術的なサポートや補助メニューの紹介、先進事例の紹介があるとイメージしやすいと思いますので、適宜、アドバイスを頂きたいと思います。 ・ ひととおりのご意見を頂きましたので、最後に町長からお願いします。
庄司町長	・ 佐藤(里)委員から、佐藤家の活用についてご意見を伺って大変うれしかった。素晴らしいお屋敷とお蔵をお持ちなので、ここが観光の拠点になれば、かわまちづくりの核となるのではないのでしょうか。 ・ 今後も皆様から様々なご意見を頂きながら、進めていきたいと思っています。また、皆様とまちを歩きながら考えていくということも大事だと思いました。
加藤会長	・ 作る時代から使う時代にシフトしており、使われるかどうか勝負だと思っています。本日は、形式的な協議会というよりも、自分事で考えて頂けると良いと思っていたので、各方面からバランスのいい意見を頂けて、良い会議になったと思います。ありがとうございました。

7. その他	
事務局	・ 加藤会長スムーズな進行どうもありがとうございました。 ・ 事務局からは、特に事務連絡はありません。
8. 閉会	司会より閉会あいさつ
	・ 長い時間となりましたが、第 1 回の協議会を閉会させていただきます。 ・ 計画策定までご苦勞をおかけするかと思います。どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

以上